

特集② 地域版未来会議

「育つ」、「つながる」、「根をおろす」

対話によるまちづくりを進めるための、
人づくり、環境づくりを行います



市では令和元年度に「松浦市総合計画」を策定しました。策定においては、総合計画をこれまでの行政が作る行政計画ではなく、市民とともに作る公共計画として位置付け、市民と協議を重ねました。市では、対話によるまちづくりを進めるための人材育成と地域毎の地域運営組織立ち上げに向けての環境づくりの機運を高めるため、地域版未来会議を実施します。

●地域版未来会議とは

【松浦市総合計画の策定】

松浦市総合計画を作る過程において、市民の声を聴く一つの手法として、平成30年は、松浦未来会議を4回開催しました。

会議では、対話によるまちづくりのため、幅広い年代の方130人、延べ320人に参加いただき、本市の強みや弱み、10年後に向けた思いなど多くの意見を出していただきました。

また、令和元年度には、市内8地域において、地域版未来会議を開催。延べ140人の市民に参加していただき、各地域の課題と目指したい方向性、具体的提案などの意見をいただき、松浦市総合計画を策定しました。

【令和2年度の地域版未来会議】

昨年度（令和2年度）も地域版未来会議を開催し、前年度に出していた

いた各地域の課題などから導き出したテーマごとにグループを作り、課題解決のアイデア提案や自分たちでできること、行政にお願いしたいことなどについて話し合いを行いました。



▶昨年の今福会場

●小学校区を対象とした協働によるまちづくり

全国的な動きとして地域運営組織を立ち上げる自治体が増えています。これは複雑多様化する住民ニーズに加え、人口減少に伴い地域の担い手や市職員の減少などにより、行政だけでは解決することができないことが増え、住民と協働によるまちづくりの必要性が高まってきたことによるものです。

【全国的な動き・県内の動き】

総務省の資料によると令和元年度の組織数は全国で5,236組織あり、平成30年度(4,787組織)から44.9組織増加(9.4%増)しています。

また、地域運営組織が形成されている市区町村は742市区町村で、全国の市区町村の約43.2%となっており、平成30年度(711市区町村)から31市区町村増加(4.4%)しています。

組織形態としては、法人格を持たない任意団体が87%、次いでNPO法人が約5%という状況です。県内でも長崎市や平戸市において、地域運営組織が立ち上げられており、まちづくり交付金などを活用し、活動をされています。

他市では、市からの交付金や自

己資金を活用し、地域運営組織がコミュニティバスを運営するなど、地域が抱える課題に対する取り組みを実現されています。

【モデル地域の立ち上げ支援】

このような動きの中で本市としても各地域に地域運営組織の立ち上げを考えていますが、一度にすべての地域で組織編成することは困難と考え、モデル的な組織の立ち上げに向けて取り組んでいます。

モデル地域においては、現在各団体が取り組んでいる事業を地域運営組織の事業として行うことで、地域内の他の団体も相互に協力する体制を整備します。

組織ができた次の段階で皆さんで行える、新たな取り組みを企画

していただく流れを考えています。市では、このモデル地域の立ち上げを支援し、成功事例をもとに他地域での組織立ち上げを進めたいと考えています。

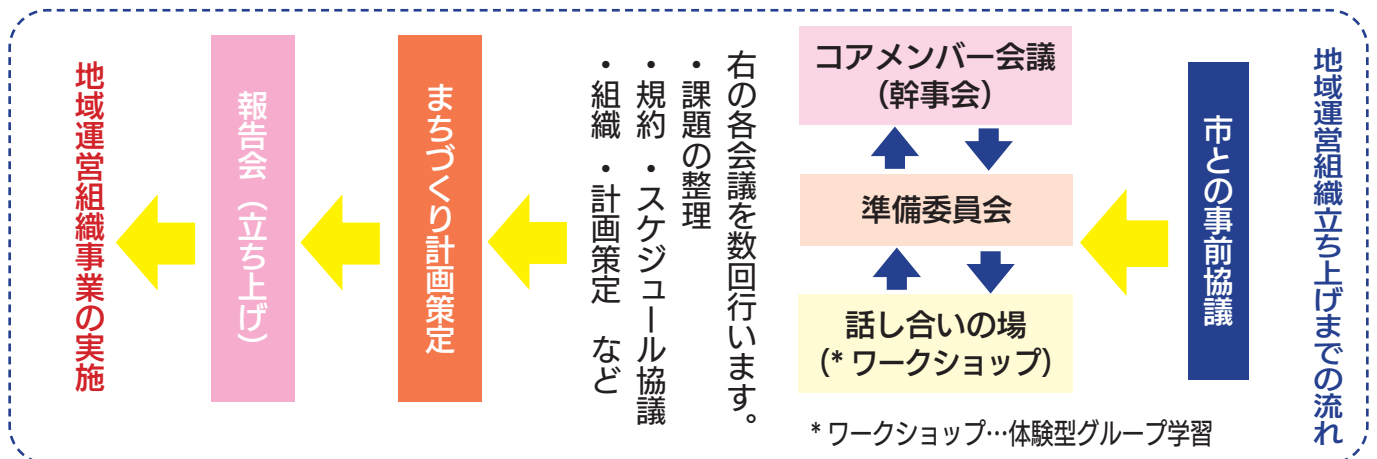
【地域における対話の必要性】

この地域運営組織立ち上げにおいては、交付金で行う取り組みを記載した「まちづくり計画」の策定が必要となります。

この計画を策定する際には、地域全体で意見を出してもらい集約する仕組みが必要になります。

地域での話し合いにおいては、安全・安心、子ども・教育、高齢者対策、農山村の維持などの各分野において、いかに実現可能な取り組みを計画に盛り込めるかが重要であり、場合によっては、会話の促進役となるファシリテーターの役割が重要になってきます。

市としては、将来的には市民ファシリテーターや市職員にこの話し合いの促進役として活躍してほしいと考えています。



●市民ファシリテーターの育成

対話の心得として、「話を否定せず、最後まで耳を澄ませます。断定しない。自分だけが正しいと思わない。沈黙を歓迎する。」

この対話の促進役としてファシリテーターを置く場合もあります。市では、市民や職員などを対象にファシリテーターの育成を行っています。

【対話への種まき】

最近では、ワークショップ形式などで話し合いをするとき、話し合いのポイントを要約・整理・説明したり、意見を出しやすい雰囲気を作ったりする「ファシリテーター」と言われる話し合いの促進役を置くことがあります。



▶ファシリテーター人材育成講座

市では、令和2年度にこのファシリテーターを育成するファシリテーター人材育成講座を開催しました。

この講座には市民18人が参加。計5回の講座を受講していただき、話し合いの進め方などを学びました。

受講後のアンケートでは「参加できて良かったです。大勢での話の場所が楽しくなりました。どんな風に進めたら良いのかという点が見えてきた」、「話し合いって意外と思うように進まず、ストレスがたまるのですが、こんなにそうだぞうだ！と同調できる話し合い、とっても心がすっきりととなって、ストレスなしでした」などの意見が出ていました。

また、市職員についても、市民との対話の場において必要なスキルであることから、計3回、18人の職員が受講しました。



市民ファシリテーター

青の未来をかたるカフェ代表

高田 さおりさん（志佐町在住）

地域版未来会議に参加して対話形式での話し合いが楽しかったので、対話について興味を持ちファシリテーター人材育成講座に参加しました。講座は長時間でしたが、実際に参加すると楽しくあつという間に過ぎました。

他の参加者も「楽しかった。ためになった」と言われていたので、継続的に勉強する場として市民ファシリテーターの会の立ち上げを提案しました。対話により、PTAや自治会などの会議を前向きな意見が出るような会にできると思うし、家庭内でも会話のきっかけになると思います。

この対話の考え方を色んな人に広めて松浦を対話のまちにして活性化できればと思います。一緒に活動できる人を増やしていきたいです。



市民ファシリテーター

青の未来をかたるカフェ

植村 雄磨さん（今福町出身・作業療法士）

平成30年の未来会議へ参加して、普段は話す機会が少ない人との対話が楽しく、その会を話の促進役として上手にまとめられているファシリテーターの様子をみて、自分も地域で対話することを、松浦の文化にしたいと思ひ、ファシリテーター人材育成講座を受講しました。

会の名称の意味は、青い松浦、未来を「語る」と「かたる（参加する）」、カフェはひとひと息する場所、対話から生まれる場所という意味があります。

高校生など若い世代も含めて対話の楽しさを伝えていき、松浦に対話の文化が広まってくれればうれしいです。

意見の違いを楽しみ、話し合いの中から松浦の未来へ繋がるような対話の場を皆さんと一緒に作っていききたいです。

【対話の定着に向けた芽生え】

市民ファシリテーター人材育成講座を受講した人から、受講して終了ではなく、今後も定期的に集まって情報交換をしたり、このスキルを今後も維持し、伸ばす機会を作りたいという意見があり、市民有志10人による「青の未来をかたるカフェ」が設立。
自主的に月1回、第2土曜日に集まり、意見交換をされています。



● 地域版未来会議を開催します

令和3年度も市内8地域において、地域版未来会議を行います。
本年度も、若者からお年寄りまで広い年代のご意見をお伺いしたいと考えており、市民ファシリテーターにも参加を呼びかけています。

【地域版未来会議の開催】

市では、令和3年度も地域版未来会議を開催します。

昨年度までの地域版未来会議で地域ごとに導き出した課題や当日参加された人から提案いただいたテーマごとにグループを作り、ワークショップ形式で対話を行っていただくと考えています。

また、昨年度に研修を受けた市民ファシリテーターにもお手伝いいただき、各地域の課題やこれからのまちづくりなどについてのご意見

をいただきたいと考えています。

この地域版未来会議は、前に述べた地域運営組織が立ち上がるまでを一つの区切りとして、毎年開催する予定です。

市民皆さんの意見をこれからのまちづくりに反映するための機会でもありますので、ぜひご参加ください。日程については、別途配布するチラシをご覧ください。

【問合せ先】

政策企画課 ☎内線315

昨年の地域版未来会議へ参加された市民の方にインタビュー



村上 真樹さん (志佐町在住)

Q: どうして地域版未来会議へ参加しようと思われたのですか。

A: 地元松浦へ帰ってきて文化会館の管理を行う㈱ケイミックスパブリックビジネスに勤務しています。福岡にいたときは、自分が住む町のことを考えることはありませんでしたが、地域版未来会議があることを知り、これからずっと住むことになるので自分の町のことを知るうえで、いい機会だと思い参加しました。

Q: 参加されてどう思われましたか。

A: 皆さんそれぞれに問題意識を持たれていて、自分が住む町のことを真剣に考えていらっしやる人たちがいることに安心しました。場の雰囲気も良く、自分の意見をすべて言えてとても良かったです。

Q: どんな方に参加してもらいたいと思いますか。

A: Uターン者や働き盛りの人にも参加してもらいたいです。Uターンしてきて思うのですが、外から見る松浦の良さがあると思います。内からだけではその良さに気づいていないことがあるのでは。そういった意味で、Uターン者の集いなどを行い、そこで出た意見がUターンで迷っている人の背中を押すことになればいいと思います。

Q: どういう未来会議になってほしいと思いますか。

A: たくさんの人が参加し、多くの意見を出し合って、松浦をどうしたいか、日常的にまちの未来について話せるような町になっただけがいいなと思います。そして、一人ひとりが松浦のために、自分ができる何かをやっているというふうな取り組みができればいいと思います。そういう住みやすい町にしていくきっかけづくりの場になってほしいです。